

カースィム・アミーン 著 岡崎弘樹・後藤絵美 訳

アラブの女性解放論

ユニベルシタス 1169 / 四六判上製 352 頁

定価 3,520 円 (本体 3,200 円 + 税) / ISBN978-4-588-01169-6 C3336



女性とは何なのか。男性と同じ人間だ。

120 年前のエジプトで唱えられた男女平等思想。女子教育、ヴェール、家族法に関するその主張は、反イスラームといわれながらも、エジプトのみならずイスラーム地域の諸言語に訳され、信仰と近代性との調和を切に求める人々に広く定着していった。本書はそのアラブ・フェミニズムの基本文献『女性の解放』(1899 年)と『新しい女性』(1900 年)に、詳細な解説 2 本を付す。当時の衝撃と後世まで与えた影響を理解するのに格好の書。

おもな目次

『女性の解放』

はじめに / 序章 社会における女性の地位は国の精神的成熟度を反映している / 第一章 女性の教育 / 第二章 女性のヒジャーブ / 第三章 女性と国 / 第四章 家族 / 結論

『新しい女性』

はじめに / 第一章 歴史の中の女性 / 第二章 女性の自由 / 第三章 女性の自身への義務 / 第四章 女性の家族への義務 / 第五章 教育と隔離 / 結論 エジプトの女性をめぐる思想状況

解説 1 カースィム・アミーンとエジプトのフェミニズム

解説 2 アラブ近代思想におけるカースィム・アミーンの女性解放論

著者

カースィム・アミーン (Qāsim Amīn)

1863 年、エジプト生まれ。法律家。カイロで近代的な学校教育を受けた後、フランスで法律を学ぶ。1885 年に帰国後、検事長や裁判官を歴任。1890 年代半ば以降、エジプトの社会問題やエジプト人の精神性について執筆する。女性の地位の低さとその改善の必要性を論じた『女性の解放』はとくに注目されたが、多くの批判にもさらされた。その応答が『新しい女性』である。1908 年、44 歳で死去。

訳者

岡崎弘樹 (おかざき・ひろき) 亜細亜大学国際関係学部講師。

後藤絵美 (ごとう・えみ) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教。

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 法政大学出版局 FAX 03-5214-5542

注

ユニベルシタス 1169 アラブの女性解放論

定価 3520 円

書店名

文

ご芳名

書

ご連絡先